セパラスィオン

明星　幽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
セパラスィオン

【Ｎコード】
Ｎ２８２７Ｚ

【作者名】
明星　幽

【あらすじ】
とある異世界で起こった、後の世に語り継がれる御伽噺。　悪魔の王と言われた黒の少年と、裏切りの手下と言われた白の少年の、その最後を綴った、短い短い最期の物語。

「忘れないで！」
叫ぶ、朝風の声。
「君が夜なら、僕は朝だから！」

「忘れないよ」
応ずる、夜風の声。
「私が闇ならば、お前は光だから」

「私達は対だから。それは決して、変わる事は無いから」
落ち着いた声で、けれども泣きそうな笑顔で。
「約束だよ……僕たちは、必ずまた、会う――再開するんだ」
震える声で、けれども断言する真剣な顔で。

「約束しよう。私達は必ず、再開する。――例え、生まれおちる世界を違(たが)えようとも」
「そう――例え、何度世界を巡っても」

紫紺の瞳が、蒼穹を見つめる。
「必ず、見つける」
蒼藍の瞳が、宵闇を見つめる。
「必ず、探し出す」

朝と夜の声が、
「「約束だ」」
重なった――。

夜が、朝へと変わる、その一瞬。

夜明けの象徴を背に、果てしない草原と迫りくる金属の音を背負った、白の少年は言った。
「またね、ナハト」
まだ明けぬ闇を背に、何処までも続く海の荒れ狂う波の音を背負った、黒の少年は応えた。
「あぁ……また逢おう、フォア」

消え去り堕ちる黒と、白線に赤く染まる白。

遥かな昔、とある異世界。
二つの少年の命が終わり、そして再び始まり、続く輪廻の物語。

この世界の、とある国での御伽噺。

『あるところに、我が國をほろぼそうと、たくさんの悪魔たちを送りこんできた悪魔の王がいました。
悪魔の王が送りこんでくる悪魔たちは、とてもつよく、我が國は日々、悪魔に脅えてくらさなければなりませんでした。

そんなある日、我が國の優秀な騎士たちは、ついに悪魔の王をとらえる事に、成功します。
我らが王は、すぐさま悪魔の王を聖なる力をもって無にかえすように、聖なる泉のもとへつれて行き、多くのひとびとのまえで、悪魔の王に断罪をくだそうとしました。
けれどもそこに、突如として白い服をまとった一人の聖職者が現れ、そして悪魔の王を泉よりつれだし、街をぬけ、夜のくらい森の中へとにげていってしまいました。その者はなんと、聖職者のふりをした、悪魔の王の手下だったのです。

我らにとって、神の加護を与えるそんざいである聖職者へのぼうとくと、悪魔の王を救ったその者に、我らが王はたいへんお怒りになり、我らに、偉大なる王の名にかけて、かならずや悪の王と裏切り者のその手下を倒す事を、ちかわれました。

それから数日間、我らが王と王に仕えし臣下たちは、日々悪魔と戦いつづけました。

そうして、ついに悪魔の王とその手下を見つけた時、王はその知恵と力をもって、さいごには二人の悪の者を、とある崖へとおいやることに成功したのです。

そして、さいごの時――

崖のふちへと追い込まれた悪魔の王は、夜をせおったまま、みずから我らが王に負けを認め、つめたい海の底へとその身を沈めました。さいごまでていこうしていた悪魔の王の手下もまた、我らが王のふるった聖剣によって、無にかえりました。
我らが王は、さいごに聖剣を悪魔の王が身をなげた崖へとつきたて、神々の力をもって、おおいなる闇をはらいました。

のちに我らが王は、聖剣をのこしたその崖に名前をつけました。それが、今わたしたちが知っている？光の崖？と呼ばれる聖地なのです。

我らが王もまた、国じゅうのひとびとから尊敬され、今のように？英雄王？と呼ばれるようになりました。

こうして、せかいから悪魔の数がへり、より平和な今へとせかいは生まれ変わったのでした』

これは、二人の少年の、出会いと理解、そして別れ（セパラスィオン）のお話。

廻り巡る、死生の物語――その、ハジマリの御伽。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2827z/

セパラスィオン

2011年12月9日23時52分発行